

すべての子どもたちにゆきとどいた教育を

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 11 2016年10月24日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

中標津町訪問(9月28日)

道教組の梶木書記長と根室教組中標津支部の山上支部長が中標津町教育委員会を訪問し、小谷木教育長、南教育部長、赤塚管理課長の3名が応対してくれました。

教育長は、「地元の農業高校が道立から町立となり、町の責任で運営することとなった。生徒も減少し、町費だけでは改修できずとても困っている」と話してくれました。中標津町は「過疎債」の対象町でないことから地方交付税の増額が見込めず、人口の少ない町にとっては財政負担が重いとのことでした。



町の様子を聞くと、「活発な町であり雇用もある。しかし、単身者が多く、子育て世代は大変苦勞されている。不登校の子どもも多い」とのことでした。

中標津町には今年度から導入された「義務教育学校」として計根別学園があります。後半は、かねてから根室教組養護教員部と道教組養護教員部が要求してきた、小中併置校における「養教の複数配置」について意見交換しました。

最後に、教員の超勤解消について質問すると、「道教委からは似たような調査が下りてくる。何とかまとめてもらえないものかと思っている。役場も同じなので、改めるよう努力している」と教育部長。「精神疾患による病休者もあり、中には退職された先生もいる。何とか業務の軽減を図りたい」と管理課長。まとめとして教育長は、「選挙で政治を変えないと教育は変わらない」と子どものための教育をめざす心意気を感じるコメントでした。

懇談の終了間際には、現地の根室教組中標津支部、山上支部長が同施設内での研修後に駆けつけてくれました。すると、教育長や教育部長、管理課長とも顔見知りで、すでに今年の「教育全国署名」を教育委員会のみなさんをお願いしていたようです。管理課長の計らいで職員のみなさんに署名していただいていた。

地方の教育委員会は、学校や教職員との距離が近く、気持ちが通っている印象でした。そういうことも最初からできているのではなく、日頃からの関係がつくるものだと思います。

ゆきとどいた教育をすすめる地域

学習会 in 釧路のご案内

「考えよう！ 地域にとって、学校とは？」

第1部 話題提供 (18:30~19:10)

「北海道・道東の地域教育の現状と課題」

講師：廣田 健さん(北海道教育大学釧路校)

第2部 現場報告など (19:10~19:50)

第3部 意見交流 (20:00~20:30)

◆日時◆ 11月10日(木) 18:20~20:40
18:00より受付

◆場所◆ 釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞 学習室601号」

◆主催◆ 道民の会・ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

教育全国署名の記入についてのお願い

すでに教育全国署名を組合、他団体から送付いただいています。その中で、名前や住所が「//」で記入されているものがあります。

送付される前に、名前や住所に「//」があれば修正し、正しい住所の記入をしてから送付していただくようにお願いします。